

4 気 象 (平成22年1月～12月)

1月：前半は冬型の気圧配置が続き、晴れの日が多くなった。12日には日本の南にある前線の影響により東京（大手町）では初雪を観測した。中旬後半以降は冬型の気圧配置が長続きせず、代わって移動性の高気圧に覆われる日が多く、概ね晴れた。下旬には数日の周期で低気圧が通過し、伊豆諸島では天気の状態が崩れる日があった。東京（大手町）の月平均気温は高く、月間日照時間はかなり多く、月降水量は少なくなった。

2月：月のはじめと中頃に寒気の影響で一時的に低温傾向となったが、上旬後半と下旬には南からの暖かい空気が流れ込んで気温が高くなり、気温の変動が大きい月となった。また、本州付近を通過した低気圧や前線の影響で、平年に比べて曇りや雨または雪の日が多く、東京では雪を観測した日数が10日に及び、26年ぶりの多さとなった。東京（大手町）の月平均気温は平年並、月間日照時間はかなり少なく、月降水量は多くなった。

3月：上旬は低気圧や前線が次々と通り天気がぐずつき、中旬以降もほぼ数日おきに低気圧が通過したことから、月間を通して低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の天気の日が多くなった。東京（大手町）月平均気温は、平年並となっているが、全般に気温の変動が大きく、特に中旬がかなり高かった一方で、下旬は寒気の影響で一転して低くなったことが特徴的である。月降水量は、平年より多くなり、月間日照時間は、平年より少なくなった。

4月：前線を伴った低気圧が次々と通過したため、曇りや雨の日が多くなった。東京（大手町）月平均気温は平年よりかなり低くなった。中旬の前半までは3月に続き、低気圧の通過に前後して気温の変動が大きくなった一方、14日頃からは4月としては強い寒気が断続的に流れ込み、気温の低い日が多くなったことが特徴的である。特に17日には寒気の影響の中、本州の南海上を低気圧が通過し、東京では41年ぶりとなる遅い雪の観測があった。月降水量は平年よりかなり多く、月間日照時間は、平年より少なくなった。

5月：上旬の3日から9日は高気圧に覆われ夏日となり東京の気温はかなり高く推移した。その後、11日から16日にかけて気温は上がらず、中旬の平均気温は平年よりかなり低くなった。下旬には短い周期で低気圧が通過し、23日から24日は関東の南海上を通過した低気圧の影響でまとまった雨となった。東京（大手町）の月平均気温は平年並、月降水量は平年並、月間日照時間は、平年より多くなった。

6月：月の前半は梅雨前線が日本の南に停滞し、本州付近は高気圧に覆われたため晴れの日が多くなった。月の後半は梅雨前線が本州付近に停滞し、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。東京（大手町）

の月平均気温は高く、月降水量は少なく、月間日照時間は平年並となった。

7月：都内は、月の前半は梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多くなった。後半は太平洋高気圧の勢力が強まり晴れの日が多くなったが、月末には湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり曇りや雨となった。東京（大手町）の月平均気温は高く、月降水量は少なく、月間日照時間は、平年並となった。21日から24日にかけては4日連続で猛暑日となり、統計開始（1961年）以降、これまでの連続記録（1978年と1994年）に並ぶものとなった。

8月：都内は、全般的に太平洋高気圧に覆われる事が多く晴れの日が多くなったが、前半は、南から湿った空気が入りやすい状態となり、大気の状態が不安定となり変わりやすい天気となった。東京（大手町）の月平均気温はかなり高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間は、多くなった。15日から18日にかけては4日連続で猛暑日となり、7月に続き統計開始（1961年）以降、これまでの連続記録（1978年と1994年）に並んだ。

9月：都内では、下旬のはじめまで概ね南から高気圧に覆われて高温傾向となった。上旬の台風9号の接近と、中旬の低気圧通過に伴う悪天候が続いた。下旬半ばからは南岸近傍に前線が停滞し、一転して気温が降下するなど気象変化の著しい月となった。東京（大手町）の月平均気温は高く、月降水量はかなり多く、月間日照時間はかなり多くなった。

10月：都内は、中旬頃までは概ね周期的変化が基調で、気温は高く推移したが、下旬は南岸の前線と低気圧、および月末に本州の南海上を通過した台風第14号などの影響により曇雨天が継続し、日照時間は寡少となり、気温も下がった。東京（大手町）の月平均気温は高く、月降水量は多く、月間日照時間はかなり少なくなった。

11月：都内の天候は、移動性高気圧と低気圧が数日の間隔で通る周期変化が基調となった。伊豆諸島では南岸沖を通過する低気圧の影響などで日照時間が少ない期間もあったが、都心部では1日に関東南岸を通過した低気圧による大雨以外、移動性高気圧に覆われて晴れることが多く、冬型になっても一時的なもので、顕著な気象現象はなかった。東京（大手町）の月平均気温は高く、月降水量は平年並み、月間日照時間は多くなった。

12月：都内の天候は、冬型の気圧配置が持続せず、天気は周期的に変化した。また、期間をとおして、気温は高く推移した。3日には発達した低気圧が日本海を北東進し、この低気圧から延びる前線が都内を通過した時に大雨による被害が発生した。21日から22日にも、本州南岸を通過した低気圧により都内各地で大雨とな

るなど、降水量の少ない時期にもかかわらず12月としてはまとまった雨となったため、月降水量は都内各地で平年値の4～5倍となった。東京（大手町）の月平均気温はかなり高く、月降水量はかなり多く、月間日照時間は多くなった。

（調査：東京管区气象台）

気温・降水量（平成22年）

区分	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
月平均気温	(°C)	5.6	5.6	8.6	12.0	18.7	23.6	28.0	29.9	24.9	18.3	12.1	8.5	16.3
平年値	(°C)	4.5	5.1	8.2	13.9	18.4	21.7	25.2	26.9	23.0	17.2	11.7	6.9	15.2
月平均最高気温	(°C)	11.1	10.1	13.7	17.1	24.0	29.0	32.9	35.1	29.8	21.8	17.0	13.4	21.3
平年値	(°C)	9.2	9.7	12.8	18.7	23.2	25.6	29.2	31.1	26.6	21.3	16.1	11.7	19.6
月平均最低気温	(°C)	0.9	1.7	4.0	7.5	14.2	19.6	24.3	26.4	21.5	15.5	8.0	4.4	12.3
平年値	(°C)	0.4	1.0	4.0	9.3	14.1	18.2	21.8	23.6	19.9	13.7	7.9	2.8	11.4
月降水量	(mm)	10.0	113.5	149.5	212.0	123.0	128.5	150.0	32.5	389.0	175.5	105.5	158.5	1747.5
平年値	(mm)	42.6	60.5	121.3	122.6	122.5	165.4	178.9	177.0	220.4	156.0	91.5	32.0	1490.8

注：（1）観測地は、東京管区气象台練馬地域気象観測所（豊玉上1丁目武蔵高校内）。

（2）気温の観測は1～24時の毎正時に行う。平均気温はこれを平均したもの。項目の「平均」は、一日の平均気温、最高気温、最低気温をそれぞれ年または月で平均した数値である。

（3）項目の「平年値」は昭和54年～平成12年の22年間の観測値を平均した数値である。

調査：東京管区气象台